

神奈川県警と連携した 防犯ボランティア活動



相模女子大学学生支援課 横田 智子

相模女子大学では、神奈川県警と連携して防犯ボランティア活動を行っている。この活動を通して、自主的に地域のために活動を行おうとする学生も出てきている。ここでは、県警と連携して取り組むことになった経緯、活動内容、ならびに今後の展望について紹介する。

相模女子大学について

相模女子大学は、相模原市南区文京(小田急相模大野駅から徒歩10分)に位置し、幼稚部から大学院まで同じキャンパス内にある。現在、3,400人の学生が在籍している。

防犯ボランティアのきっかけ

平成24年5月、神奈川県警察本部、神奈川県相模原南警察署より、本学の学生が中心となる防犯ボランティアについて提案された。これまでも、他大学生による防犯ボランティア活動が行われてはいるが、大学の支援がなければ継続的な活動が困難であるとのことであった。本学は女子大学で、女性特有の犯罪被害防止教育も必要であると考えていたこともあり、引き受けることとなった。

防犯ボランティアの実践

●痴漢対策強化キャンペーン

神奈川県相模原南警察署からの要請により、約50人の学生たちが、日ごろ利用している相模大野駅のペDESTリアンデッキにて、「痴漢は犯罪です」と通る人に声をかけ、防犯グッズを配布した。痴漢の被害者になりかねない、若い女子大学生たちが声をかけることは、地域の人たちにも印象に残ることであったと考えられる。平成25年度も同キャンペーンを実施した。(写真1)



(写真1)相模大野駅前での痴漢対策強化キャンペーン

●演劇部による子ども防犯教室

平成24年6月、相模原市南区南台にある二宮神社にて、自治会の祭りがあり、本学の演劇部員が誘拐防止のための「子ども防犯教室」を実施した。日ごろから、さまざまな演劇をしている部員による防犯教室は見ごたえがあり、大変好評であった。その後も地域から、演劇部に依頼がある状況である。本学の小学部向けにも防犯劇を検討しており、学内外での活動が期待されている。また、今後は高齢者向けの振り込め詐欺防止の演劇なども検討している。(写真2)



(写真2)「子ども防犯教室」の誘拐防止の演劇

警察との連携強化

●護身術講座

平成24年7月、神奈川県相模原南警察署の協力を得て、護身術の講座を開催した。学生たちは帰宅時

間が遅くなることもあり、防犯意識を高めるために実施した。このような講座を開催できるようになったのも、防犯ボランティアを通して警察と綿密な関係ができたからであり、女子大学としては大変ありがたいことであると考えている。この講座は平成25年度も神奈川県相模原南警察署の協力を得て実施することができた。(写真3)



(写真3)護身術講座での実演

【今後の展望】

こうした防犯ボランティア活動の延長で、神奈川県から補助金を受けることができ、防犯ベストを作製した。また、本学でも予算化し、追加でベストを作製した。現在は、このベストを着用し、活動している。(写真5)



(写真5)防犯ベスト着用での活動

●防犯ボランティア連携に関する協定

平成24年12月、学生の防犯意識を高め、地域社会とのつながりを強化することを目的として、神奈川県相模原南警察署と防犯ボランティア活動の連携に関する協定を締結した。神奈川県内の大学としては初の締結となり、読売新聞にも掲載され、注目された。(写真4)



(写真4)「防犯ボランティア活動の連携に関する協定」締結式

防犯ボランティアに参加することで、学生たちの防犯意識は高まりつつある。現在は、学生たちができる振り込め詐欺防止などの防犯ボランティア活動について、大学内で調整をしている状況である。学生自身の防犯意識を高めつつ、地域社会へ貢献できる活動として、防犯ボランティアは今後も広がりを見せていくと考えている。

本学の防犯ボランティアは、学内外からも認められる地域貢献活動の一つとなった。女子大学生が自らを守る防犯意識を高めつつ、地域の中で活動することで、地域の人たちと協力し合う大切さを学んでいる。

また、本学生だけでなく、他大学生とともに防犯サークル活動をしている学生たちもいる。防犯ボランティアは幅広く、多様な活動ができるといえる。(写真6)



(写真6)青パトで自主防犯パトロールを行う学生

今後も学生自身のため、地域の安全・安心まちづくりのために、学生たちが防犯ボランティアに参加する意義は大きい。それを継続できるよう支援することが大学の役割であると考えている。